



手づくり支援プロジェクト

～手づくりの器を直接被災地に届けよう～

第6、7回支援活動の記録

2013年12月7日～9日
2014年3月15～16日
(宮城県石巻市)



手づくり支援プロジェクトとは

私たちは震災直後から東北の被災地で栃木の名産である**益子焼などを提供する陶器市イベントを開催**してきました。避難所で多くの方々方がサララップを敷いた発泡スチロールの食器で食事をしている姿をTVでもよく見たと思います。私たちの職場でも震災後しばらくは発泡スチロールの器を毎日洗いながら再利用し、日に日に変形劣化してゆく容器で、冷たい味気ない食事をしていました。被災地でこの辛さとは比べようになりませんが、自分たちでさえこのような辛さを感じていました。

その後、徐々に仮設住宅ができ、避難所から仮設住宅に入居が始まりましたが、仮設住宅には基本の食器のset(飯椀、湯呑、小皿など)はありますが、数や種類は少なく、すべて量産品の画一なもので、まるで病院の食器のように感じました。

栃木にいる私たちが地元東北の為に何ができるだろう、といういろいろ考えましたが、栃木も益子や芳賀など多くの被害があり、友人に被害を受けた益子の陶芸家も多くいたこともあり、栃木と東北を両方支援できたらと、社内、関連メンバー、益子の陶芸家たちとこの支援活動をスタートさせました。仕組みは一般の募金(個人や協賛店)で器を購入し、それを私たちが直接被災地へ届けるというものです。一般の方々、お店、作家の協力により、お金は栃木、益子に循環させ、器を東北へという流れで双方を支援する形をとっています。器は生きる基本である「食」に彩りを与え、復興に向けた毎日の生活の中で少しでも明るく元気になるような一助になってもらえたらという思いでこの活動を行っています。

↓陶器市や協賛店でのフライヤー(現在)

手づくりの器を被災地へ届けよう!

手づくりの「器」は、生きる基本である「食」に彩りを与えます。そんな「器」で、復興に向けた毎日が少しでも明るく、元気になってもらえたら、という思いで活動しています。

支援金 手づくり支援プロジェクト 手づくりの器

栃木在住の東北出身の個人、会員による運営
(広報活動/募金活動推進/促進グッズ製作etc.)

作家による支援
食器提供(益子焼など)

一般/協賛店支援
募金/募金箱設置

作家による支援
食器提供(益子焼など)

・支援金の提供(寄付、協賛店の募金協力)

・上代の3割での提供
・B品/半端品などの無償提供
・陶器市での募金推進協力

●お問合せ「手づくり支援プロジェクト」で検索
<http://handmade-project.info.com>

●支援金の口座 銀行振込
足利銀行 東海川出支所 (附) 3230334
口座名義 手づくり支援プロジェクト

これまでの活動実績! 手づくりの器約1万4000個を提供!

2011年7月 山田町(4000個を提供)
2011年12月 大塚町/岩手市(2700個を提供)
2012年7月 遊動高田市(3000個を販売、全売上を寄付)
2012年12月 気仙沼市(1200個を販売、全売上を寄附)
2013年6月 東京府川口市(1100個を販売、全売上を寄附)
2013年12月 石巻市(600個を販売、全売上を寄附)
2014年3月 石巻市(700個を販売、全売上を寄附)

活動の軌跡

2011 3月末 岩手出身の光原みちが友人の陶芸家 河ノカワカオリ氏に本支援プロジェクトを相談、友人の約20名の作家の賛同を得てスタート 矢川士郎氏、矢川杏子(筆作家)氏も参加し、募金活動のノベルティグッズを考案



サバイバル用のホイッスルに「二度と使うことがないように」と願いをこめて、手づくりで革のカバーに器の焼印を一つ一つ入れ製作

4月 同郷の小向麻子氏も加わり、HP製作、法人口座開設 益子春の陶器市での協力作家への呼びかけ、募金開始



「手づくり支援プロジェクト」は 被災地へ手づくりの器を届ける支援活動で、一般の方々からの支援と、モノづくり作家による支援の、双方による東北支援活動です。現在、約600の協賛店、90名以上の作家が参加してくださっています。

手づくり支援プロジェクト(協力作家、協賛店など)

・協力作家(名前の順)

相澤のなつ	藤野佳	中村かりん	津島典子
阿久津理士	藤山友重	坂本まゆみ	岩淵なる美
向井佳介	藤村健典	坂本まゆみ	ソノバトウ
池上隆生	加藤博史	佐藤誠	野水香穂
伊佐名美子	加藤由	清水亮輝	野間なほみ
石橋泰典	加藤由	清水亮輝	野間なほみ
いちのわ津美	川崎雅	菅谷友良	運鏡ひかり
伊藤空子	川崎雅	菅谷友良	運鏡ひかり
大塚正子	土佐野	山口崇史	真田川崇史
奥山正美	川又和子	川又和子	早坂真子
小嶋ひろこ	中村あつこ	中村あつこ	早坂真子
本田真久	島田友子	島田友子	早坂真子
福留由美	藤村健典	藤村健典	早坂真子
福留由美	藤村健典	藤村健典	早坂真子
おとがわさこ	藤村健典	藤村健典	早坂真子
大塚子	藤村健典	藤村健典	早坂真子
福留由美	藤村健典	藤村健典	早坂真子

・協賛店(募金箱/グッズ設置協力など)

Company	Food
黄色いY株式会社	pan de musha musha
ソノバトウ	and coffee
ソノバトウ	パン茶房 小梅堂
ソノバトウ	ばんとおかし ノア
ソノバトウ	真工印NO.1A
ソノバトウ	とらとらのたまり
ソノバトウ	Taverna Sakurai
ソノバトウ	藤原洋
ソノバトウ	サン・クリストフ
ソノバトウ	Bist-eria Mill-Milo
ソノバトウ	TORATTORIA da RIOBA
ソノバトウ	ザンタラ
ソノバトウ	らー藤藤家
ソノバトウ	道の杜 新木
ソノバトウ	Beauty
ソノバトウ	PESCA-COCCA
ソノバトウ	salon kyoko
ソノバトウ	minox理容所
ソノバトウ	UsatoCovo
ソノバトウ	hair Labo natura
ソノバトウ	Ripple Marks HAIR
ソノバトウ	seal! hair work
ソノバトウ	ホイッスルなどの革の通販
ソノバトウ	オーダーメイド靴
ソノバトウ	レザークラフト
ソノバトウ	井戸尻トコム
ソノバトウ	READY OH ORDER
ソノバトウ	石井製菓所 (株)坂原
ソノバトウ	株式会社クローバ

・ご寄付
ほんの気持ちで構いません、小さな方も集まれば大きな力になります!

・募金箱、募金促進グッズ設置の協力
お知り合いのお店やキャラワーなど、設置協力にぜひお力をかけてください。

・本ボランティア活動に、ぜひみなさまのお力を貸してください!

5月 協賛店への募金箱、グッズ設置協力依頼開始 提供場所検討開始、山田町役場と相談

6月 現地視察、自治体ボランティアセンターにて打合せ 27日、NHK「首都圏ネットワーク」 「いっとろっけん」で紹介される

7月 1日、NHK-FMで放送 21~24日 第一回陶器市開催(岩手県 山田町) 22日、毎日新聞に掲載 29日、NHK「首都圏ネットワーク」で開催の様子を放送

8月 3日、NHK「おばんですいわて」岩手でも放送

11月 益子秋の陶器市開催、募金活動~器集め

12月 10日、第二回陶器市開催(岩手県 大槌町)

2013

3月 「ソトコト3月号」に掲載

4月 益子春の陶器市開催、募金活動~器集め

6月 7日、下野新聞に掲載 7~9日、第五回陶器市開催(宮城県 東松島市)

11月 益子秋の陶器市開催、募金活動~器集め

12月 14~15日、第六回陶器市開催(宮城県 石巻市)

2014

3月 16日、第七回陶器市開催(宮城県 石巻市)

2012

3月 14日、下野新聞に掲載

4月 益子春の陶器市開催、募金活動~器集め

7月 14~15日、第三回陶器市開催(岩手県 陸前高田市) 15日、岩手日日新聞に掲載 17日、三陸経済新聞に掲載

11月 益子秋の陶器市開催、募金活動~器集め

12月 8日、第四回陶器市開催(宮城県 気仙沼市) 23日、下野新聞に掲載

石巻市について

石巻市は、宮城県東部旧北上川の河口に位置し、宮城県内第二の人口(15万1千)を擁する市であり、北東部地域を代表する風光明媚な都市です。金華山沖(三陸沖)では、黒潮(暖流)と親潮(寒流)がぶつかるため世界三大漁場の1つとなっており、漁場に近い本市は全国でも有数の水産都市となっています。市内の万石浦でカキの養殖法が開発され、世界中に広がりました。また、同市が進めるマンガランド構想の中核施設、仮面ライダーなどの漫画で有名な石ノ森章太郎(現登米市出身)さんの「石ノ森萬画館」もあります。

震災では被災都市の中で最大級の被害となり、被災住家は全住家数の約7割の53,742棟、うち約3割の22,357棟が全壊(平成23年10月末)となりました。

以下に今回の活動を行った石巻市のデータなどを記載します。データは市役所や復興庁、その他出版物などに基づいています。



1. 被災状況(市役所公表データ 2014/3時点)

- 死亡者数 3270人
- 安否不明者数 438人
- 仮設住宅数 7122戸(137箇所)

2. 被災棟数の内訳

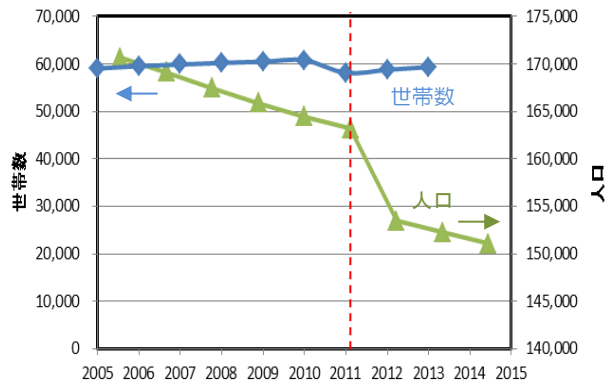
全壊	半壊	一部損壊	被災前全
22357棟	11021棟	20364棟	74000棟

全棟数の約30%が全壊、約15%が半壊、一部損壊まで含めると全世帯の約73%となります。

3. 世帯数、人口の変化

	世帯数	人口(人)
震災前(2010/9)	60818戸	163,216
現在(2014/3)	59468戸	150,742

全世帯数は変化は小さいですが、人口は震災前から徐々に減少、震災で大きく減少しています。



4. 仮設住宅

- 全133団地、7122戸 避難所は2011/10にすべて閉鎖
- 災害公営住宅の大幅な遅れもあり、現在1年間の延長措置が取られています(P13参照)。

↓間取り例(2DK:2~3人用)

↓仮設住宅(写真は石巻市大橋地区、開成地区)



家電(日本赤十字社からの寄付)
32型液晶TV、冷蔵庫、洗濯機、炊飯器、電子レンジ、エアコン



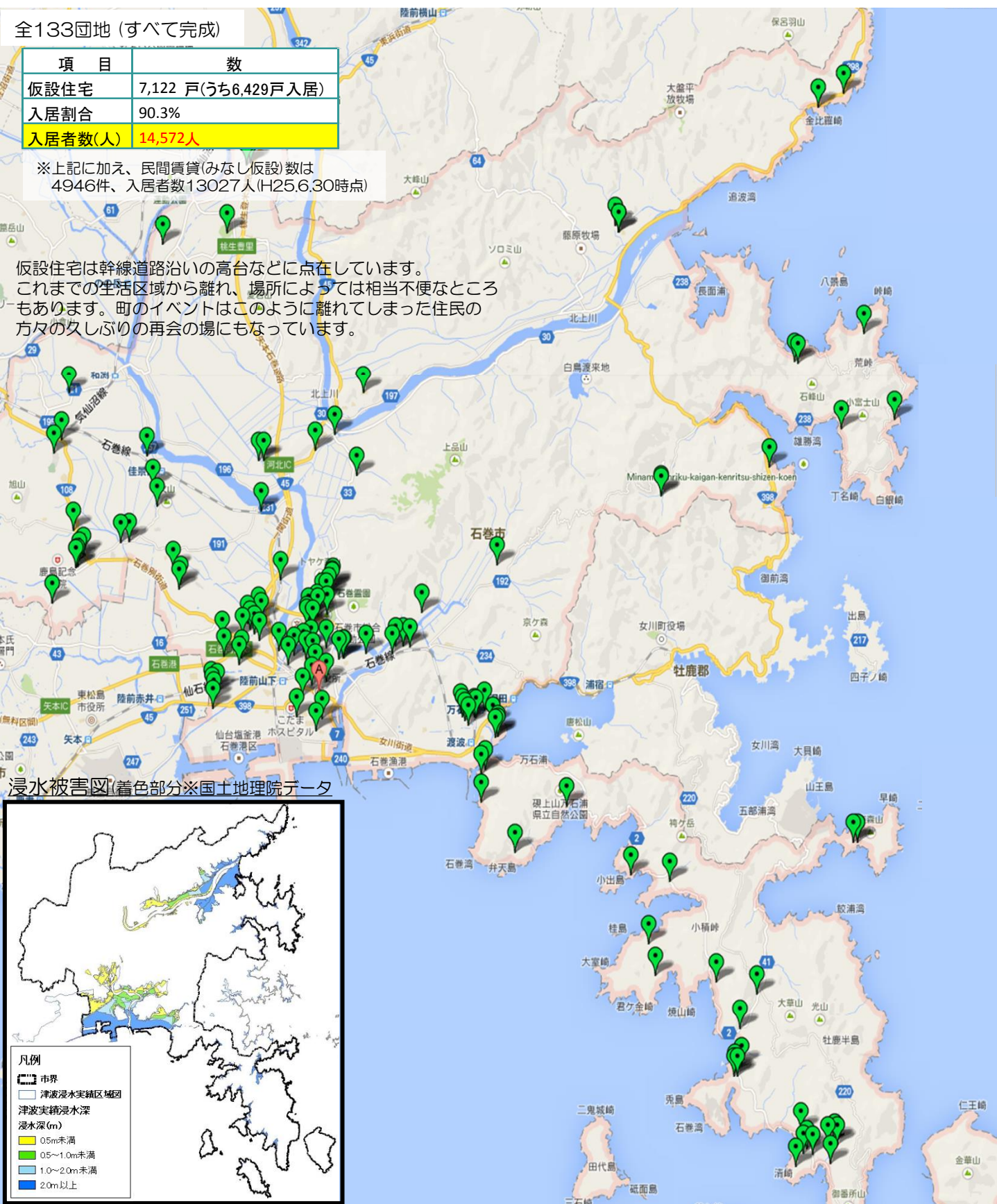
仮設住宅の位置(※宮城県webサイトより)

全133団地(すべて完成)

項目	数
仮設住宅	7,122 戸(うち6,429戸入居)
入居割合	90.3%
入居者数(人)	14,572人

※上記に加え、民間賃貸(みなし仮設)数は
4946件、入居者数13027人(H25.6.30時点)

仮設住宅は幹線道路沿いの高台などに点在しています。
これまでの生活区域から離れ、場所によっては相当不便なところ
もあります。町のイベントはこのように離れてしまった住民の
方々の久しぶりの再会の場にもなっています。



浸水被害図(着色部分※国土地理院データ)

(1) 地震と津波の状況

14時46分の地震で市内で最大震度6強が観測され、鮎川エリアの最大津波高さは8.6m以上とされています。本市の地理的特徴から、被害のほとんどは津波によるもので、防潮堤を超えたもの、北上川を遡上した津波が市街地、農地などへ流れ込み多くの浸水被害を生じさせています。

写真で見る被災状況(2014)



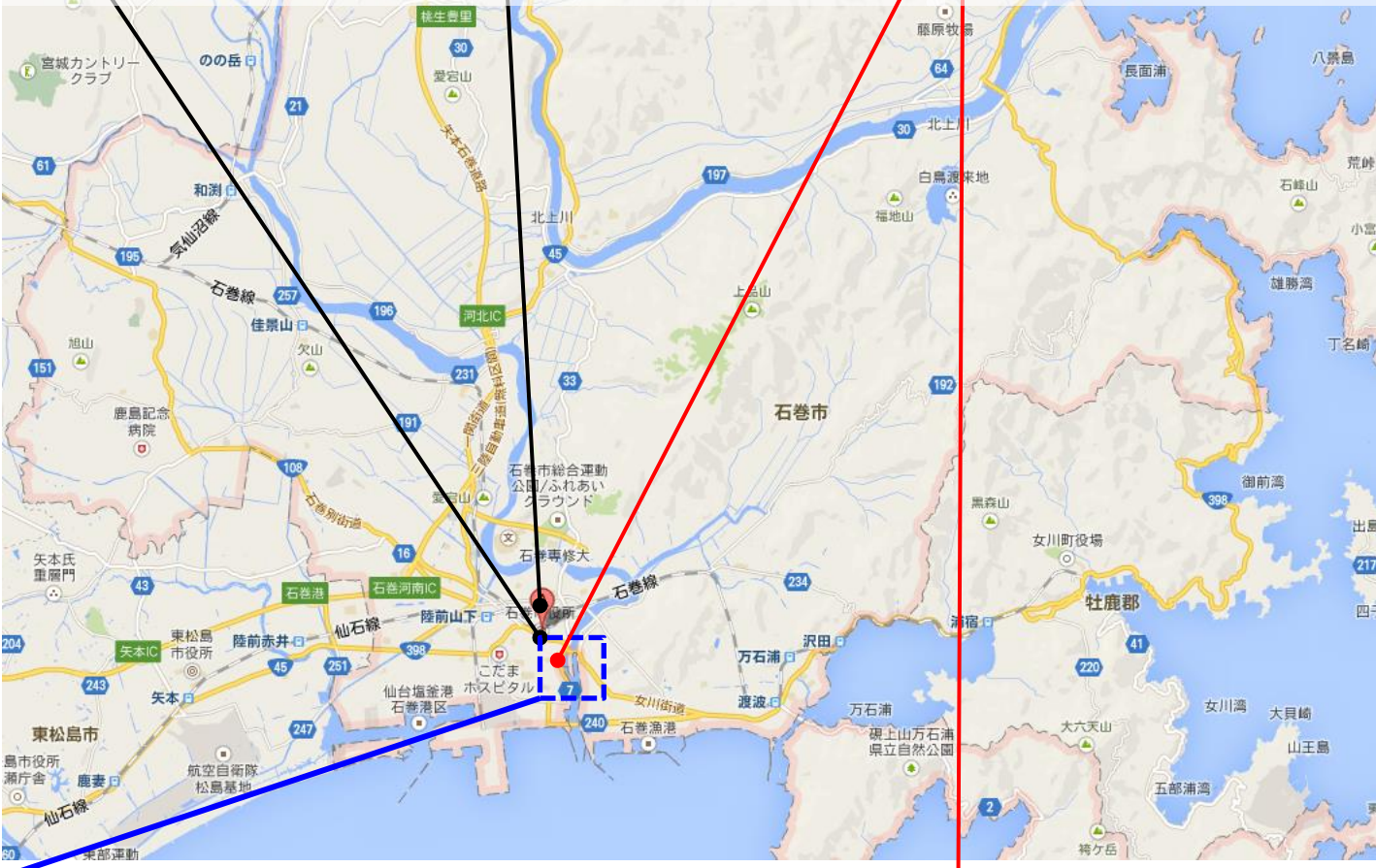
石巻駅前商店街
震災後は土砂が覆っていた道も現在はきれいになっています。お店も開いているところもありました。



石巻駅(仙石線)
電気設備が復旧していない為、ディーゼル車両が使われています。内陸に路線を移し15年度内の全線復旧を目指しています。



陶器市開催会場(復興マルシェ)付近
旧北上川のすぐ脇のこの会場周辺は工事があまり進んでないように感じられました。



日和山から見た旧北上川沿いの市街地：中央の白いドーム型の建物は石ノ森漫画館で、2012年の11月に再開館しています。

石巻市での陶器市開催①

イベントなどの少ない被災地で実際の陶器市のように、好きなものを選び、少しでも楽しんでもらいたいということで、これまで同様に陶器市という形で開催しています。

今回も大皿や魚皿、小～中鉢、急須、そのほか花器、丼ものなど、多くの種類をおりませで準備をしました。募金額の大幅減少のため、今回も多くの作家さんより無償で器を提供をいただきました。また県外の作家さんからもご協力をいただき、数としてはこれまで同等の約3000点を用意することができました。

震災からだいぶ時間が経っていますが、継続してご協力くださる作家さん、協賛店の方々、県外からもHPやご紹介で、関心を持って下さる方々など多くの関係者のお力添えのもと、プロジェクトは継続することができています。

手づくりの器は見て楽しめるだけでなく、実際に触れて使っていただくことで徐々に変化し、味が出てきます。復興へむけたこれからの長い道のりの中で、被災地の方々とともに毎日の食へのいろどりを与え続けられたらという想いを込めて、陶器市を開催しています。未永く使っていただけたら嬉しいです。

メンバーの活動風景 12月7日（金）出発



- ・AM9:00上三川に集合。
これまで準備した約3000個の器(コンテナ84個)、その他コンパネなど機材を積込む。行程のブリーフィングを行い、まずは3台、6人の先発隊でAM10:00出発。(他は現地合流)



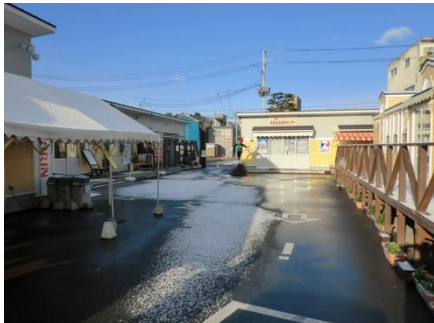
- ・PM3:00 上三川から約340km、現地へ到着、石巻まちなか復興マルシェは石巻で最も大きい仮設の商店街。現地到着後、事務局に挨拶し、明日からの開催に向けた現場のおおまかなレイアウト確認、打合せを行いました。その後、宿へ移動。平日の金曜だったこともあるせいか、マルシェではほとんどお客さんがおらず、また、残念なことに閉店してしまった店舗もあり、このような仮設商店街の継続の難しさを感じました。



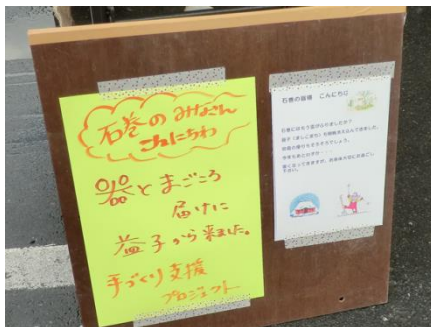
- ・マルシェにはいくつかの商店があり、生鮮食材の購入や食事ができるようになっていました。写真中央はマルシェ裏の建物で、上層階まで津波をかぶった(すぐ脇を旧北上川がながれ、この左写真の堤防からあふれ出た津波が駅前まで到達)。中央の丸い建物は石ノ森漫画館。宿では明日の陶器市に向け、準備を行う。夜、早朝のメンバーと合流し計11人となる。

12月8日(土) 石巻市(まちなか復興マルシェ)での陶器市開催

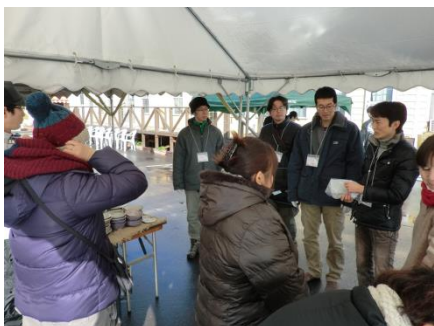
この日は商工会議所主催の「石巻まるごとフェスタ」という毎年恒例の年末市が石巻駅前で行われていました。我々も地元の方が多く集まるこのイベントに合わせて参加し、より多くの方々に器を提供したいと打診をしたのですが、残念ながら地元の企業だけしか参加できないということで、最も大きい仮設商店街である、まちなか復興マルシェにて開催をすることにしました。



- AM7:00 昨夜降った雪がうっすら残る会場へ到着、大量のコンテナを降ろし、総動員で準備を行いました。今回は我々メンバーの数が少ないため、いつもより時間がかかりました。この時期の外での作業は本当に寒さが身に沁みます。

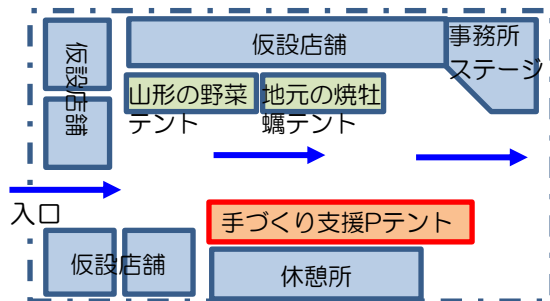


- AM9:30 会計、梱包処での袋準備(取扱い説明書や寄書のチラシ入れ)などを行います。今回も約90名もの多くの作家作品が並び、いよいよスタート準備が整いました。地元の焼牡蠣の販売のテント、山形の野菜、果物のテントとともにイベント開始です。



- これまでと同様にプロジェクトの趣旨などをディスプレイし、最後のミーティングを行いAM10:00、イベントスタートです。昨夜の雪もあり、開場前のお客さんの数はいつもより少なめでしたが、すこしずつ地元の方が入ってきました。

今回は我々の陶器市を含め、イベントのテントは仮設の商店街の前を囲むように配置し、お客さんが中央に流れるようにして開催をしました(右図)。正面はその日の朝に取れたての牡蠣を焼いて提供する地元のテント、横はラフランスや林檎、野菜、お米などを提供する山形からのテントです。





・地元万石浦産の朝獲りの牡蠣。震災で壊滅した牡蠣棚も復活し、立派な牡蠣が獲れるようになってきました(左写真)。午前中は予想以上に人足が少ないということで、急遽石巻駅前のイベント広場で陶器市開催のチラシを配り、地元の方にこちらの会場まで足を運んでいただきました。時折雪が吹雪いたり、曇ったりでだいぶ荒れた一日になりました。

この日は時折雪が吹雪いたりと天候には恵まれませんでした。寒い中多くの地元の方々が足を運んでくださいました。こちらでもまた来て開催して欲しいとの声も多く、今後仮設住宅から自立して、再び自分の家で生活をするようになるとさらに支援のニーズが出てくることを感じます。仮設の商店街の運営もそうですが、支援の熱が冷める中、今後もどのように活動を継続してゆくかが大きな課題です。

12月9日(日) 市nomaki(まちなか復興マルシェ)での陶器市開催

2日目は市nomakiという石巻を元気にしたいという地元の若者などが立ち上げた、様々な作家さんやお店の集まるイベントで我々も一緒に陶器市を開催する予定でしたが、雪の為に中止となりました。ただせっかく集まってくれた多くの方々がいたので、我々だけでプチ陶器市を開催し、地元の方に喜んでいただきました。



・今回お世話になった小松荘(左写真)。当時は2階まで被水しましたが、直してまた宿を再開しています。建設関係の方など多くの方が宿泊していました。2日目も雪が積もり、車や会場は真っ白でした。



・朝8時、多くの関係者が集まりましたが、天候の心配から中止になりました。我々は前日からテント内に器を仮梱包の状態だったので、せっかく集まった地元の方、市関係の方へプチ陶器市を開催しました。地元の飲食店、Caféなどのお店の方へも多くの器を提供し喜んでいただきました。

今回メイン1日のイベントでしたが100名を超える地元の方々に器を選んでいただき、やはり回を重ねる度に少しずつ表情が明るくなっていることを実感することができました。ここでも本当に喜んでくださる方が多く、再び自分の家で生活ができるようになる時まで我々も支援を続けてゆきたいと思いました。

売上は全額(153,300円)を、まちなか復興マルシェ(93,500円)、手づくり市nomaki(59,800円)へそれぞれ寄付し、活動費や復興資金に使っていただくこととしました。

石巻市での陶器市開催②

いろいろと検討する中で、震災からまる3年の節目に、前回中止となった手づくり市nomakiと再び陶器市を開催することとしました。特に前回は天候が厳しく少な目な人出で、また、せっかく活動を通して縁が出来た市nomakiとの2日目のイベントも雪の為に中止となったこともあり、もう一度この石巻で開催したいという思いがありました。

今回は市nomakiの手づくり市(作家さんの手作り雑貨やパン、海産物などが並ぶ月一回の恒例の市)はHPやラジオで告知し、我々は事前に新聞(河北新報さん)の掲載協力を得て、イベントの告知をしました。

メンバーの活動風景 3月15日(土) 出発



・AM9:00上三川に集合。

これまで準備した約2500個の器(コンテナ72個)、その他コンパネなど機材を積み込みます。タイヤが積み荷で沈むのでしっかり空気圧を調整。行程のブリーフィングを行い、器を満載した5台、11人の先発隊でAM10:00出発。(他は現地合流)



・PM3:00 無事現地へ到着。事務局に挨拶し、明日からの開催に向けた現場のおおまかなレイアウト確認、テーブルセッティング、ボードのディスプレイなどを行いました。今回は室内での開催です。



・その後、マルシェを後にし、2班に分かれて駅前や商店街、周辺の住宅地へイベントのチラシを配りました(約1時間かけて550枚配布)。地元の人たちは歩いていても自転車に乗っていても、快く話を聞いて、ありがとう！とチラシを受け取ってくれました。チラシ配りにせよなかなかこのようなことはないのではないかと思います。地元の方々の暖かい人柄、ボランティアに対する感謝の気持ちをととても感じました。メンバー一同、街の人の温かさを感じつつ宿へ移動しました。

今回は上記のイベント告知と、前日に石巻駅周辺の商店街や会場周辺のアパートやマンションなどへも陶器市開催のチラシを配りました。古くからの商店街は活気がなく、空き店舗も多数見られました。

このような状況はどこの方でも同じ様な感じです。震災後、地元の若者やUターンしてきた若者たちにより、地元の商店街の空き店舗を活用しリノベーションが進められていたりもしますが、やはり商店街の役割は大きく変わってきているようです。

3月16日(日) 市nomaki(まちなか復興マルシェ)での陶器市開催

前回12月の開催は極寒の雪の中でしたが、今回は朝から晴れ間が見えています。また、陶器市会場も今回は室内ということもあり、だいぶ暖かく感じました。手づくり市nomakiも無事開催です。



- AM8:00 会場へ到着。天候にも恵まれ、空は晴れています。深夜バスでの到着のメンバーと合流し計13人となりました。大量のコンテナを一気に降ろし、総動員で準備を行います。市nomakiのテントも徐々にできてきました。



- AM10:00 会計、梱包処での袋準備(取扱説明書や寄書のチラシ入れ)などを行います。今回も約90名もの作家の作品が並び、いよいよスタート準備が整いました。さあ、イベント開始です。お客さんも入ってきました。



- 市nomakiのテントの様子。沿岸部の天気は急変します。残念ながら午後は途中時折雨と風がひどくなったりで、市nomakiのテントは早々に終了となりました。この手づくり市は毎月一度開催されていて、今回我々は室内のスペースを借りて開催できたため、雨の影響を受けずに地元の方々もゆっくりと器を選び、定刻まで開催することができました。



- 外の雨の影響もあり、多くの方々が入ってきました。室内の方はますます盛況です。今回も皆さんかなりじっくりと手に取って選んでいます。地元の方々との会話の中で、「器を仮設住宅から引っ越した人にプレゼントしたいと思って」などといったような明るい話題もいろいろと聞くことが出来ました。



・陶器市終了後、片づけと梱包開始です。出すのはあつという間ですがしまうのは大変で、毎回結構な時間がかかります。約2h半かけて再梱包し、車に詰め込みます。夕方、メンバー全員で写真、今回も無事終了です。



・帰路に就く前に現地の沿岸部、我々が器を提供したお店などを視察しました。沿岸部の小さな集落では基礎が残ったまま、ほぼそのままの状態でした。住民は亡くなった方、別の場所に住んでいる方がほとんどで再び戻ってくることは難しく seemed でした。護岸の整備は一部(上写真)を残したままの場所も見られたが、だいぶ新しくなっており、この日も作業は行われていました。



・前回、今回と陶器市で器を提供した蛤浜のCafeはまぐり堂さん。水産高校教師だった亀山さんが教職を辞し、地元の浜の再生を目指してオープンさせたお店です。実際使ってもらっている様子を見られるのはとても嬉しいものです。下は四季彩食いまむらさん。被災した店舗をボランティアメンバーと1年がかりで改装しオープンさせた和食のお店です。

今回も雨などの天候の悪い中、多くの地元の方々が足を運んでくださいました。地元の方々との会話の中で、「茶道や新しい趣味を始めたので、その器を見に来ました」「この春から復興住宅へ引っ越すので器が欲しかった」など明るい話も色々と聞くことが出来ました。仮設住宅から復興住宅へ移る予定の方、新しい引越し先が決まった方などが、いままで収納場所が少なく欲しい器もなかなか揃えられなかったけれど、今度は揃えられると言って嬉しそうに選んで行かれる姿が印象的でした。またこれまで以上に、家族人数分の揃えの器が欲しいという声も多く、現地の変化を感じることができました。

また、新しいお店や仮設住宅団地の集会所、ケアセンターなどでのニーズの話も聞かれ、今後こういった小さなニーズも検討をして、より多くの地元の方々の要望にも応えられたらと思いました。

今回の会場であるまちなか復興マルシェは残念ながら今年いっぱい閉鎖されるということですが、大型ショッピングセンターの進出とともに地元の商店街が消えてゆく流れはどこも同じように感じます。実際近郊のイオンモールでは多くの地元の方で混雑し、生活になくはならないものとなっています。小さな商店街はその特色、違いを上手く活かさない限り、継続することが難しく、商店街は空洞化してゆきますが、代わりに大きなショッピングセンターは利便性と雇用を生み出します。地方都市はどこも同じような画一的なものになりがちですが、震災により、これまでできなかった街づくりや新しい挑戦ができる可能性があるのではと思います。東北の復興に向けて、ぜひ過疎に負けない魅力ある新しい街づくりを、とそんな願いと期待を込めて、今回の売上は全額(172,500円)石巻市へ寄附しました。

数字で見る石巻市の状況 (※2014/2時点 市データより)

宮城県第二の都市、最大級の被害を被った石巻ですが、石巻の3年経った現状を市の公表データからみると、復旧、復興に向けてはまだまだかなり長い時間がかかる、ということがわかります。

石巻市の復旧・復興にかかる主な事業費の総額は約1兆255億円を予定していますが、震災前（平成23年度）の石巻市の一般会計歳出予算は617.5億円であり、市の一般会計予算のおよそ17倍に相当します。このままでは以下の**主な事業だけでも復旧・復興には約17年かかる**ということになります。

以下にそれぞれ復旧、復興にかかる事業費を示します。道路・橋りょうの復旧で見ると、復旧済みの割合は3年経った現時点でもまだ半分にも満たないことがわかります。

(図中赤線部：3事業計、総延長距離の45.8%)

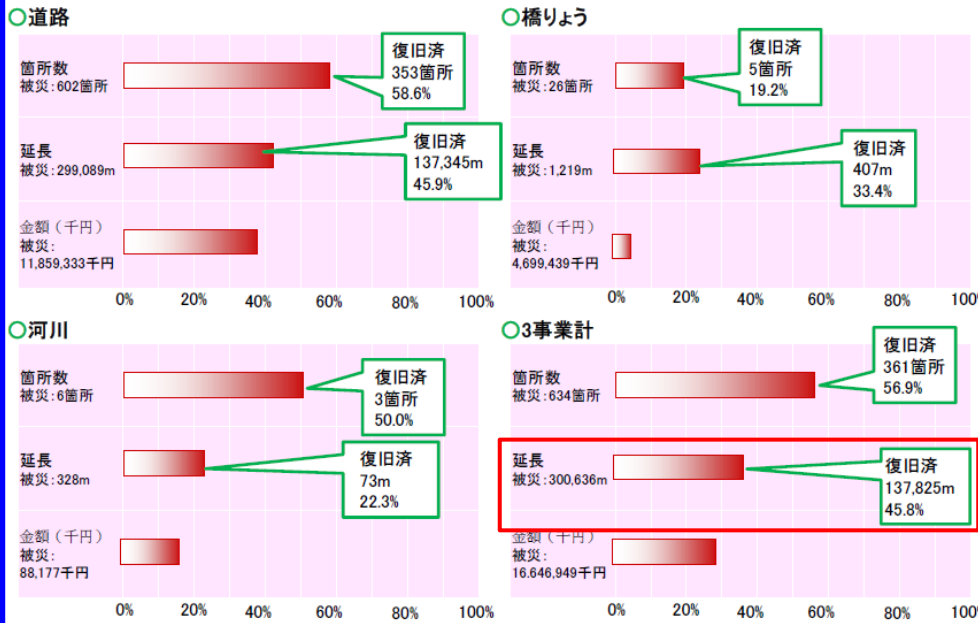
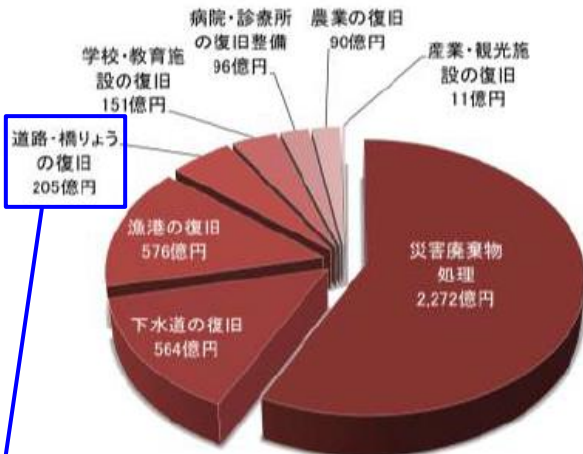
1) 復旧・復興にかかる事業費

総額 約1兆255億円



○復旧事業費 約3,965億円

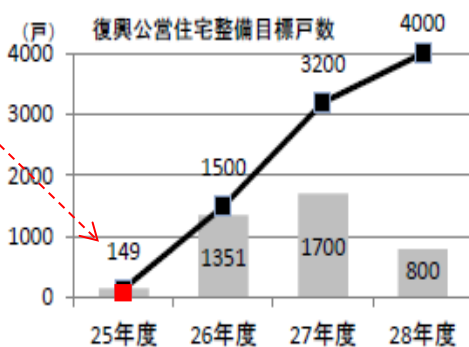
○復興事業費 約5,322億円



2) 災害公営住宅の着手状況 宮城県データ(2014/3時点)

災害公営住宅(仮設住宅からの移転)についても、石巻市も着手はしているもののまだ完了は3.7%しかありません。右下のグラフが目標値で、**3年後の平成28年度に全戸完成させる目標**になっています。現在の仮設住宅は現状1年間の延長措置が取られているものの、計画ではまだ3年かかる予定なので、さらに延長措置がなされるものと思われます。私たちは引き続きこの活動を仮設住宅が完全になくなるだろうと考えている2018年(H30年度)を一つの目標として支援を継続してゆきたいと考えています。

市町名	計画戸数	事業着手戸数		工事着手戸数		工事完了戸数	
		進捗率	進捗率	進捗率	進捗率		
01 仙台市	3,200戸	2,766戸	86.4%	2,086戸	65.2%	12戸	0.4%
02 石巻市	4,000戸	1,873戸	46.8%	531戸	13.3%	149戸	3.7%
03 塩竈市	380戸	196戸	51.6%	71戸	18.7%	31戸	8.2%
04 気仙沼市	2,200戸	1,838戸	83.5%	165戸	7.5%	0戸	
05 名取市	752戸	92戸	12.2%	0戸		0戸	
06 多賀城市	532戸	482戸	90.6%	160戸	30.1%	0戸	
07 岩沼市	210戸	210戸	100.0%	0戸		0戸	
08 登米市	60戸	60戸	100.0%	60戸	100.0%	0戸	
09 栗原市	15戸	15戸	100.0%	15戸	100.0%	15戸	100.0%
10 東松島市	1,010戸	666戸	65.9%	359戸	35.5%	0戸	
11 大崎市	170戸	170戸	100.0%	105戸	61.8%	0戸	
12 亶理町	497戸	420戸	84.5%	350戸	70.4%	0戸	
13 山元町	487戸	415戸	85.2%	83戸	17.0%	83戸	17.0%
14 松島町	52戸	52戸	100.0%	0戸		0戸	
15 七ヶ浜町	212戸	212戸	100.0%	0戸		0戸	
16 利府町	25戸	25戸	100.0%	25戸	100.0%	0戸	
17 大郷町	3戸	3戸	100.0%	3戸	100.0%	0戸	
18 涌谷町	48戸	48戸	100.0%	36戸	75.0%	0戸	
19 美里町	40戸	40戸	100.0%	40戸	100.0%	40戸	100.0%
20 女川町	945戸	228戸	24.1%	227戸	24.0%	0戸	
21 南三陸町	770戸	324戸	42.1%	84戸	10.9%	0戸	
計	15,608戸	10,135戸		4,400戸		330戸	



・石巻市の災害公営住宅の例

まだまだ数は非常に少ないですが、1戸建て(平屋、2階建)から、アパート、大きなマンションタイプと、さまざまな形態があります。狭小で環境の悪い仮設住宅から、このようなしっかりとした復興住宅への移転に合わせ、器のニーズもさらに大きくなると思われます。



※石巻市北上町白浜復興住宅(工学院大学設計) 1戸建て、各世帯100坪 2011/11完成で第一号のモデルケースとなりました。



※石巻市南中里(石巻駅周辺)で建設中の集合住宅 (市借り上げ、マンションタイプ6階建48戸) 2013/11完成予定



※石巻市根上松地区の集合住宅 (アパートタイプ2階建20戸) 入居済

震災から3年、数字でみる手づくり支援プロジェクト

この3年間で東北の被災地に約14000個(無償、チャリティー)の器を提供してきました。仮設住宅や復興住宅、店舗など様々なところで使っていただき喜んでもらっています。陶器市や協賛店での募金額の減少もありますが、作家さんの地震による被災からの復旧もあり、無償提供いただく器の割合も増えています。

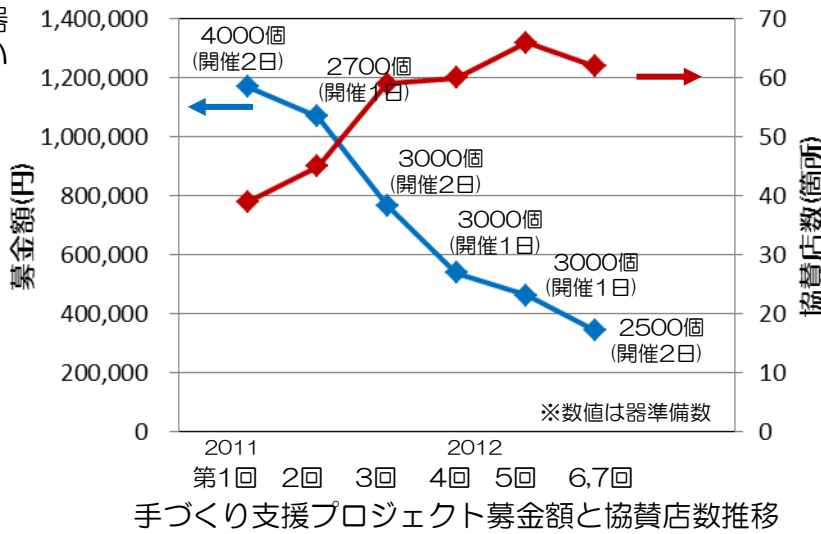
時間の経過につれ募金額(協賛店、個人、陶器市などでのもの)の減少はどうしても仕方ないことです。

募金箱に募金が集まらないことを申し訳なく感じてくださる協賛店や作家さんの方々もいらっしゃいますが、金額の多少よりも、現在でも東北支援活動をしている、支援がまだ必要であることを来てくださるお客様に一人でも多く感じていただくことができるだけでもその価値があると思っています。ですから、ボードや募金箱のセットを置いていただけるだけで、本当に有難く思っています。

もちろん私たちも支援継続のために情報を発信しながら、さらなる新しい募金促進グッズの製作(下写真)や、新たな工夫を継続して行っていこうと思っています。

協賛店では新たな価値と募金しやすい値段設定などにより概して好評を得ています。

募金箱や募金促進グッズの設置などで協力いただいている協賛店の数はわずかに増えています。1店舗当たりの募金額が減少しても、より多くの協賛店が協力して下さることで、大きな力につながります。お手数をお掛けしますが、引き続きお力添えをいただければ幸いです。



メンバーによる手づくりの募金促進グッズ



本革製のマウスパッド



手彫りハンコの絵葉書



本革製のコースターと小物など



サンキャッチャー

第6、7回手づくり支援プロジェクトまとめ 収支

収支報告

- 提供(購入)器数 : 約2500点 (食器類、花器、箸など販売個数1235個+無償提供)
- 協力作家数 : 約90名 (HPへの非記載分含む)
- 協賛店数 : 62箇所 (2014/3時点)

収入(募金分)

- 合計(11/7時点) : 342,095円(第6回時点、278,906円)
- 募金額内訳
 - 個人 : 119,740円(うち振込み30,000円、それ以外89,740円)
 - 協賛店 : 161,702円(作家さんによるイベントでの募金含む)
 - 陶器市募金(益子 秋) : 60,653円
 - 繰越金(第5回) : 145,497円

支出(器購入費、グッズ材などその他経費)

- 合計 : 327,758円
- 内訳
 - 作家への支払い : 120,690円
 - ホイッスル製作費/募金推進用材料費(ボード/募金箱、チラシその他雑費、郵送費、器着払い送料その他) : 207,068円

△ 159,834円(第8回へ繰越)



陶器市収入(商店街での器販売分)

- 合計 : 325,800円 (6回 : 153,300円 / 7回 : 172,500円)

売上は全額(325,800円)を、まちなか復興マルシェ(93,500円)、手づくり市nomaki(59,800円)、石巻市(172,500円)へそれぞれ寄付し、活動費や復興資金に使っていただくこととしました。

その他

(宿泊費@10/11/名 計163,800円 : 全てメンバー自費
また、現地移動費の一部を本田技研工業株式会社より援助いただきました)

今回は石巻市の方々のたくさんの笑顔を見ることができました。

プロジェクトの支援メンバー、作家さん、協賛店の方々、支援金をいただいた多くの方々のおかげで第6、7回の東北支援活動が達成できたことを心より感謝しています。震災から丸3年、時間の経過とともに支援の熱が冷めてゆく中、協賛店や作家、メンバーの広がり各地からの支援の輪が繋がり、これまで同様に継続、開催することができました。(今回も多くの作家さんから無償提供のご支援をいただきました。)

この活動を続けてきていろいろな現地の現状、人々の感情の変化などを見てきましたが、震災後3年、震災があったからこそその新しい挑戦がたくさん生まれていて、明るい兆しも実感として感じています。今後の新たなニーズを感じつつ、どのような支援のかたちがいいのか、継続の仕方を含め私たちも試行錯誤をしてゆこうと思っています。

被災地も少しずつ復興に向け前に進んでいますが、本当に険しく長い道のりに、継続的な支援が必要です。多くの方々が被災地をより身近に感じていただけるように発信しながら、少しずつ輪を広げて続けてゆきたいと思っています。小さなプロジェクトですが、メンバー丸力を合わせて継続してゆきますので、今後ともどうぞ変わらぬお力添えのほど、宜しくお願いいたします。

第6、7回手づくり支援プロジェクト参加メンバー



・第6回お届けメンバー

吉田弘道	加藤航一	斉藤有紀・昂成	小嶋秀忠	谷雅樹
塚本謙二	鈴木祥子	加澤祐輔	浦田健太	川又和子

・第7回お届けメンバー

吉田弘道	加藤航一	斉藤有紀・昂成	小嶋秀忠
鈴木祥子	小竹智仁	浦田健太	矢川杏子
松谷正博	松森裕史	中沢孝治	谷本智

・協力作家(名前の順)

相澤かなえ	笠原良子	斎藤圭	中村かりん	増永典子
阿久津雅土	梶山友里	坂本光永	成田真澄	豆腐なる美
岩見晋介	勝村顕飛	坂本雅子	能登美登利	Masa
池上暁生	加藤博史	佐藤敬	野水美里	三戸綾乃
伊佐名美子	加藤弓	茂野俊也	増漣	溝口丈
石嶋哲彦	加藤喜道	清水秀輝	長谷川奈美	宮島将實
いちかわ清美	川崎萌	荘司武臣	長豊陶苑	松下曜子
伊藤ヨリ	川島郁朗	菅谷太良	蓮見かおり	松下忠生
大塚温子	上條富子	薄田いと	原泰弘	もときみちこ
大津広子	川又和子	ゾエビエ・ブガル	平泉志津子	
奥住久雄	木村世傑	関口洋平	平松龍馬	吉澤奈保子
小野悦子	国友武志	関口まきこ	福地綾子	アソケイ
おぬきなつ	糸川通治	関川佳古	福田惣一	若菜綾子
岡本芳久	倉前幸徳		福山龍之介	渡辺キ工
岡本有希子	栗原節夫	瀧昭典	藤田安雄	渡辺六郎
岡田直恵	桑原純	豊田雅代	藤井美香	渡辺克典
岡部耕太郎	後藤義国	陶遊舎谷口	杓加加	その他多数
おとがわさとこ	近藤康弘	戸塚佳奈	堀水小夜	
尾関翼郎			堀水達雄	

・支援してくださった多くの方々

協賛店の方々、光房みちの友人、職場のみなさん、メンバーゆかりの多くの方々、報道関係の皆さま、本田技研工業株式会社

・協賛店(募金箱/グッズ設置協力)

Company

シヨイコム株式会社
ソフトバンク インターパーク宇都宮
ソフトバンク宇都宮東
ソフトバンク鹿沼
ソフトバンク古河
ソフトバンク真岡
イー・モバイル宇都宮

パインズ日光ゴルフ倶楽部

株式会社つかもと
作家館 つかもとギャラリー
陶芸広場つかもと
つかもと記念館

株式会社 日本ヴォーグ社

Cafe & Gallery

GALLERY IN THE BLUE
Cafe R hana
QupuQupu
Café KENZOSUN
益古時計
GALLERY TAS TAS
CAFE CENTRO
作坊 吃(ゾーフアンチー
イチトニブンノイチ
ミハシカフェ

Select Shop

ハナムグリ
GOURD+m
うつわ坂
アートショップ向井
相玄窯の店 木洩れ日
仁平古家具店
益子 第二倉庫

Beauty

PESCA-COCCA
Handmade soap SQUAMISH
salon kyoko
minori理容所
UppityCovo
hair Labo natura
Ripple Marks HAIR
seal hair work

Education

バナナキッズ (英会話教室)
雀宮校、戸祭校

Stay & Culture

二期倶楽部 アートビオトープ那須
NAO テニスクラブ

Food

pain de musha musha and coffee
パン茶房 小梅堂
ぱんとおかし ノアン
おきなわの杜
食工房NO-RA
とらっとりあ天野
Taverna Sakurai
銀座園
サン・クリストフォロ
Bis-t-eria Meli-Melo
TORATTORIA da RIOBA
鮎暁
Conifers
らー麺 藤原家
蛸の杜 栃木

ホイッスル用の革を提供していただいています。
Special thanks!

オーダーメイド靴
銀座てつじ屋

レザークラフト
井戸辰ドットコム
READY OR ORDER
石井裁断所
(株)廣瀬

ハンドバッグとトータルファッショングッズ
株式会社クイーポ

第8回手づくり支援プロジェクトについて

第8回は宮城県の南三陸町を検討しています。春の益子陶器市後の7月の開催を目指しています。南三陸町は、石巻市の北東部に位置し、人口(1万4千)を擁する町であり、リアス式海岸特有の景観や、金華山国定公園の指定を受けています。町土の70%は森林ですが、金華山沖(三陸沖)では、黒潮(暖流)と親潮(寒流)がぶつかるため世界三大漁場の1つとなっており、漁場に近い本町は水産業の町となっています。

震災ではリアス式海岸の地形的な特性から津波の影響を大きく受けて甚大な被害となりました。地震による地盤沈下も大きかった地域(-75cm)です。被災住家(半壊以上)は全住家数の約62%、約59%、3,143戸が全壊(平成23年2月末)となりました。

1. 被災状況(町役所公表データ 2014/3時点)

- 死亡者数 619人
- 安否不明者数 217人
- 仮設住宅数 7153戸(134箇所)

※当時の被災写真は町HPなどより掲載



防災対策庁舎上(3階を超える津波)



←津波後の庁舎



冠水した町内(航空写真)



JR 志津川駅



公立志津川病院



街の中心部(志津川中学校より)

開催情報は詳細が決まり次第、手づくり支援プロジェクトのHPにアップいたします。引き続きみなさまのご支援お力添えをよろしくお願いいたします。

◎お問合せ「手づくり支援プロジェクト」で検索
<http://handmade-project.iimdo.com/>

◎支援金の口座 / 銀行振込
足利銀行：駅東口出張所 (普) 3230334
口座名義 手づくり支援プロジェクト



※携帯からはこちら→

作家さんと第6、7回お届けメンバーの写真



手づくり支援プロジェクト

<http://handmade-project.jimdo.com/>

手づくり支援プロジェクト

手づくりの器を直接被災地へ届けよう